

予防接種を受ける前に必ずお読みください。

## ヒブ（インフルエンザ菌 b 型） 予防接種説明書

乳幼児の細菌性髄膜炎を起こす細菌はいくつかありますが、原因として最も多く報告されているのが「インフルエンザ菌 b 型」という細菌で、「ヒブ」と呼ばれています。

ヒブは冬に流行するインフルエンザ（流行性感冒）の原因である「インフルエンザウイルス」とは全く別のものです。ヒブによる細菌性髄膜炎（ヒブ髄膜炎）は、5歳未満の乳幼児がかかりやすく、0歳が最も多く、生後8か月にピークがあります。

### ● ヒブワクチンの効果

ヒブワクチンは、インフルエンザ菌 b 型による感染症、特に侵襲性の感染症（髄膜炎、敗血症、関節炎、喉頭蓋炎、肺炎および骨髄炎）を予防します。

### ● 対象年齢 生後2か月以上5歳未満



### ● 接種スケジュール

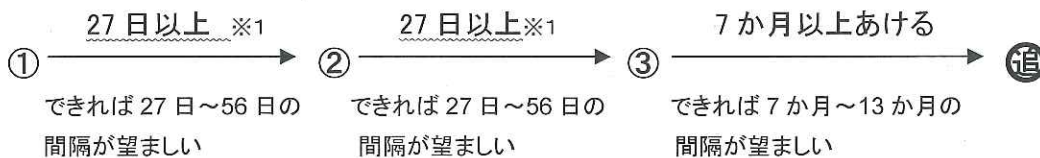
接種開始時期によって、接種方法や回数が異なります。生後2か月を過ぎたら、体調のよいときにできるだけ早く接種した方が良いでしょう。Aの接種スケジュールで接種をし、生後6か月までに免疫を獲得しておくことをお勧めします。やむを得ず、Aの接種スケジュールで接種できなかった場合は、B、Cの接種スケジュールで接種してください。

A

生後2か月 以上 7か月未満に接種開始した場合（4回接種） ★この接種方法が望ましいです

初回接種(3回): 1歳になるまでに接種しましょう

追加接種(1回)



★2回目、3回目の接種が1歳以上になる場合は、その1回（追加接種となる）で完了となります。

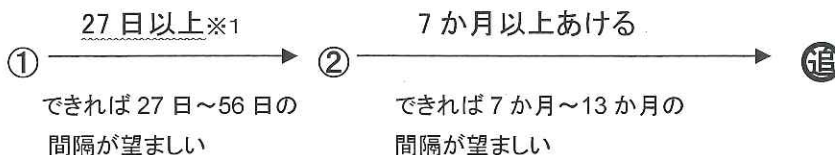
〔 2回目接種が1歳以上になる場合は、1回目と追加接種の合計2回接種、3回目接種が1歳以上になる場合は、1回目・2回目と追加接種の合計3回接種となります。 〕

B

生後7か月 以上 1歳未満に接種開始した場合（3回接種）

初回接種(2回): 1歳になるまでに接種しましょう

追加接種(1回)



★2回目の接種が1歳以上になる場合は、その1回（追加接種となる）で完了となりますので、合計2回の接種となります。

C

1歳 以上 5歳未満に接種開始した場合（1回接種）

① ★1回で接種完了となります。

※1 医師が必要と認めた場合は20日以上でよい

（裏面もご覧ください）

## ● 次の方は、接種を受けないでください

- ① 明らかに発熱している方（通常は 37.5℃を超える場合）
- ② 重い急性疾患にかかっている方
- ③ このワクチンの成分または破傷風トキソイドによってアナフィラキシー（通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）をおこしたことのある方
- ④ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

## ● 次の方は、接種前に医師にご相談ください

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- ② 過去に予防接種で接種後 2 日以内に発熱、全身性発しんなどのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ③ 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ④ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- ⑤ このワクチンの成分または破傷風トキソイドに対してアレルギーをおこすおそれのある方

## ● ワクチン接種後の注意

- ① 接種後 30 分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- ② 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③ 接種後 1 週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- ④ このワクチンの接種後は、違う種類のワクチンを接種する場合には、6 日間以上の間隔をあける必要があります。ただし、このワクチンは他のワクチンとの同時接種が可能ですので、同時接種を希望する場合には、医師にご相談ください。

## ● ワクチンの副反応

- ① ヒブワクチンの接種後に、他のワクチン接種でも見られるのと同様の副反応がみられますが、通常は一時的なもので数日で消失します。最も多く見られるのは接種部位の発赤（赤み）や腫脹（はれ）です。重い副反応として、非常にまれですが、ショック・アナフィラキシー様症状（じんましん・呼吸困難など）、けいれん（熱性けいれん含む）などの副反応が報告されています。気になる症状があるときは、医師にご相談ください。
- ② このワクチンは、製造の初期段階に、ウシの成分（フランス産ウシの肝臓および肺由来成分、ヨーロッパ産ウシの乳由来成分、米国産ウシの血液および心臓由来成分）が使用されていますがその後の精製工程を経て、製品化されています。また、このワクチンはすでに世界 100 カ国以上で使用されており、発売開始からの 14 年間に約 1 億 5000 万回接種されていますが、このワクチンの接種が原因で T S E（伝達性海綿状脳症）にかかったという報告は 1 例もありません。理論上のリスクは否定できないものの、このワクチンを接種された人が T S E にかかる危険性はほとんどないものと考えられます。

## ● 予防接種による健康被害救済制度について

市が実施する予防接種によって引き起こされた副反応により、健康被害が生じた場合、厚生労働大臣が予防接種法に基づく定期の予防接種によるものと認定したときには、予防接種法に基づく健康被害救済の給付の対象となります。

※「予防接種と子どもの健康」より抜粋



<問合せ先>

アイアイ親子サポートセンター（鯖江市健康づくり課）

鯖江市水落町 2 丁目 30-1 アイアイ鯖江内 TEL 52-1138

